



# わかみどり

<http://hirabayashi-e.murakami.ed.jp>

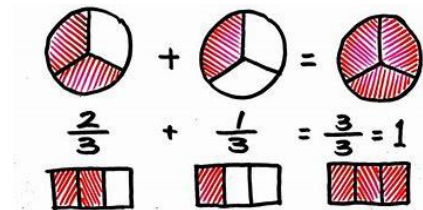


## エキスパート（熟練者）とノービス（初心者）

平林小学校 校長 遠藤 直人

私が担任をしていた頃のお話しです。算数で分数の説明をしていました。私の中では、かなりかみ砕き、誰にでも分かるように丁寧に説明したつもりでした。しかし、半分近くの児童が「えー、どういう意味？ぜんぜん分からない!!」。その後も何回か説明しますが、やはり意味不明なようでした。すると一人の児童が「だから・・・」と説明を始めました。その児童の説明は、なんだか、ちんぷんかんぷんの説明です。

さすがにその説明じゃ分からないよと思っていたら「あー、そういうことか!」何人もの児童が分かり始めました。その後も、分かり始めた別の児童が説明をすると、次から次へと「あ!分かった」と声があがりました。結局、私の説明よりも、子どもたちの意味不明な（私から見たら）説明の方がよく分かったようでした。



認知心理学に「エキスパート・ノービス理論」というものがあります。エキスパート（熟練者）は多くのプロセスを無意識のうちに行っており、何が困難かを把握しにくくなることがあります。また、エキスパートは、ノービス（初心者）がどこでつまづくかや、どの情報が必要かを予測しにくく、説明が過不足なく行われないことがあります。つまり、分からない人の気持ちは分からない人にしか分からない、どこが分からないかは、完璧に分かっている人よりも、少し分かった人の方がよく分かるということです。教え・教えられるという関係において、分かれば分かるほどよい、という単純な関係は成り立ちません。教え・教えられる両者の理解の距離が適度であるとき学びが成立します。

分からない箇所、つまづいている箇所は、人それぞれです。教室に20人いれば、20通りの説明が必要かもしれません。その説明を一人の教師が行うことは不可能に近いです。自分以外の19人からの説明を聞く方が、教師の説明を聞くよりも自分に合った説明に出会う可能性が高まります。私たち、教師の役目の一つが、20人がお互いに分からないときに「分からない、教えて」と言える関係を学級の中につくることです。教えることで「少し分かる子ども」自身の理解も深まります。人に教えるには自分の理解を整理し、説明できるレベルまで引き上げる必要があるため、教える側の学習効果も大きいです。また、協同学習を通じて、互いに助け合う文化が育ち、コミュニケーション能力や協調性といった非認知能力も向上します。先生だけに頼らない、そんな自律した子どもたちに育てていきたいと考えています。

## 百科事典をいただきました

平林小校区にお住いの佐藤 又広 様より百科事典一式全10巻をいただきました。動物や植物等の辞典はあるのですが、一式そろった百科事典はなかったので大変うれしい寄贈となりました。

早速、4年生が国語の授業で使い方を学習して、調べ学習に利用していました。他の学年もこれから利用することになります。

佐藤 又広 様 ありがとうございます。



## 楽しかった 劇団 風の子



劇 でいだらぼっち

9月27日(金)に劇団風の子公演「とんからり」を上演いたしました。

目の前で和楽器演奏や手妻（ジャグリング）、劇など、あっという間の1時間となりました。

テレビやYouTubeなどのメディアでは劇を見ることがあるかもしれませんが、生の公演は迫力が違います。子どもたちも目を輝かせて、見入っていました。次は鼓童の公演を11月26日（火）に予定しています。今から楽しみです。



## 塩谷の浜そうじ & 絶滅危惧種「アカハネバッタ」

10月2日（火）、いわふね自然愛好会主催の塩谷砂丘のプラごみ拾い活動に1年生と学習室の児童たちが参加しました。浜をきれいにするのはもちろんですが、ここは絶滅危惧種「アカハネバッタ」の生息地なのです。平林小学校区にある素晴らしい財産を児童たちに知ってもらいたく参加しました。

翌日には、いわふね自然愛好会の富樫様から来ていただき、アカハネバッタと学校のビオトープの生き物について教えていただきました。



塩谷砂丘のごみ拾い

生き物講習会



## グラッとしてもあわてない

9月12日（木）1・2・6年生が起震車による地震の疑似体験をしました。

新潟地震や阪神淡路地震などの震度7クラスの揺れを体験しましたが、揺れるとわかっているだけでもグラッとくれば驚くものです。揺れてもあわてることなく、冷静に行動に移れる体験となったようです。

